PS 時刻変更スクリプト仕様

目次

[PS 時刻変更スクリプト仕様 1](#_Toc517699832)

[**特定ホスト群の現在時刻を取得する** 3](#_Toc517699833)

[パス 3](#_Toc517699834)

[パラメーター 3](#_Toc517699835)

[戻り値 3](#_Toc517699836)

[構文例 4](#_Toc517699837)

[**特定ホスト群の時刻を変更する** 4](#_Toc517699838)

[パス 4](#_Toc517699839)

[パラメーター 4](#_Toc517699840)

[戻り値 6](#_Toc517699841)

[構文例 6](#_Toc517699842)

[その他補足 7](#_Toc517699843)

# **特定ホスト群の現在時刻を取得する**

**get\_servernow.ps1**

**※ドメイン環境のみ対応**

ターゲットの現在のシステム時刻を取得します。

時刻とホスト名を格納したPSCustomObject オブジェクトを返します。

## パス

C:\scripts\Change\_datetime

## パラメーター

*Target* [required]

Type: String

Parameter Sets: サーバー側の設定ファイル ”server\_list.json” のキー名

現在のシステム時刻を取得する対象を指定する。

※実際に使用可能なパラメーターはサーバー側に設置されている設定ファイル ”server\_list.json” の内容により異なります。使用可能な値については、コンテンツ担当者に確認をしてください。

　　使用可能な値(※ToSの場合です。):

test\_world1 … tos-test-game1 が対象になります。

test\_world2 … tos-test-game2が対象になります。

pre\_world1 … tos-pre-game1 が対象になります。

pre\_world2 … tos-pre-game2 が対象になります。

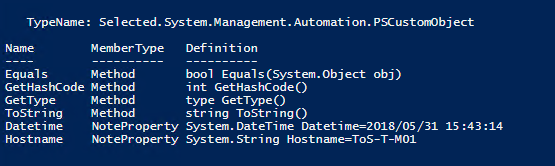
test … ToS-T-M01 が対象になります。検証時はこのパラメータを使用してください。

## 戻り値

Type:Selected.System.Management.Automation.PSCustomObject

*Datetime*: 時刻情報を格納した System.DateTime型のオブジェクト

*Hostname*: 時刻情報を取得した対象のホスト名 System.String



## 構文例

以下の例では tos-test-game1ホストの現在のシステム時刻を取得します。

|  |
| --- |
| get\_servernow.ps1 –Target test\_world1 |

**get\_servernow\_workgroup.ps1**

ワークグループ環境で使用します。

ターゲットの現在のシステム時刻を取得します。

時刻とホスト名を格納したPSCustomObject オブジェクトを返します。

※**ドメイン・ワークグループ環境で使用可能**

## パス

get\_servernow.ps1と同様のため割愛。

## パラメーター

get\_servernow.ps1と同様のため割愛。

## 戻り値

get\_servernow.ps1と同様のため割愛。

## 構文例

以下の例では tos-test-game1 ホストの現在システム時刻を取得します。

|  |
| --- |
| get\_servernow\_workgroup.ps1 –Target test |

# **特定ホスト群の時刻を変更する**

**set\_servertime.ps1**

ターゲットのシステム時刻を変更します。

タスクの実行結果とタスクが実行されたホスト名を格納したオブジェクトを返します。

**※ドメイン環境でのみ使用可能。**

## パス

C:\scripts\Change\_datetime

## パラメーター

*Target* [required]:

Type: String

Parameter Sets: サーバー側の設定ファイル ”server\_list.json” のキー名

システム時刻を変更する対象を指定する。

※実際に使用可能なパラメーターはサーバー側に設置されている設定ファイル ”server\_list.json” の内容により異なります。使用可能な値については、コンテンツ担当者に確認をしてください。

使用可能な値(※ToSの場合です。):

test\_world1 … tos-test-game1 が対象になります。

test\_world2 … tos-test-game2 が対象になります。

pre\_world1 … tos-pre-game1 が対象になります。

pre\_world2 … tos-pre-game2 が対象になります。

test …ToS-T-M01 が対象になります。検証時はこのパラメータを使用してください。

*Mode* [required]:

Type: String

Parameter Sets: Set, Return

システム時刻変更のモードを選択します。

　　使用可能な値:

Set … ドメインコントローラーとの時刻同期を無効化してシステム時刻を変更します。

Return … ドメインコントローラーとの時刻同期を有効化して。時刻同期を開始します。

*Year* [unrequired]:

Type: Int32

変更する年を指定します。 1 ~ 9999の値を入力します。デフォルト値はこのスクリプトが実行されるホスト上の現在の年です。

*Month* [unrequired]:

Type: Int32

変更する月を指定します。1 ~ 12 の値を入力します。デフォルト値はこのスクリプトが実行されるホスト上の現在の月です。

*Day* [unrequired]:

Type: Int32

変更する日を指定します。1 ~ 31 の値を入力します。デフォルト値はこのスクリプトが実行されるホスト上の現在の日です。

*Hour* [unrequired]:

Type: Int32

変更する時を指定します。 0 ~ 23 の値を入力します。デフォルト値はこのスクリプトが実行されるホスト上の現在の時です。

*Minute* [unrequired]:

Type: Int32

変更する分を指定します。 0 ~ 59 の値を入力します。デフォルト値はこのスクリプトが実行されるホスト上の現在の分です。

*~~Addwork~~* ~~[unrequired][switch]:~~

~~Type: Boolean~~

~~システム時刻を変更する対象ホストで add\_work.ps1 を実行します。~~

~~add\_work.ps1 はシステム時刻の変更以外で実行しなければならない処理が記述されています。~~

**ToSの場合は時刻変更をするにあたってサーバー上の特定ファイルの一部の値を書き換える必要があるのでこのオプションを使用していますが、本来は備わっていないオプションです。**

## 戻り値

Type:Selected.System.Management.Automation.PSCustomObject

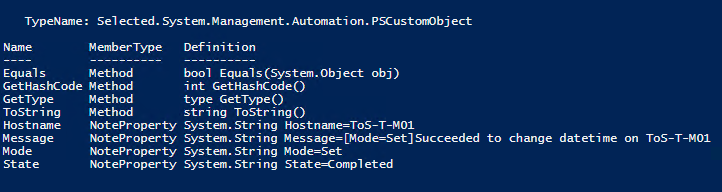
Hostname: システム時刻変更対象のホスト名 System.String

Message: システム時刻変更処理に関するメッセージ System.String

Mode: システム時刻変更のモード

State: リモートコンピューター上でのシステム時刻変更タスクの実行結果

入りうる値としては、Completed、Running など



## 構文例

以下の例では、tos-test-game1ホストのシステム時刻を 2018/7/7 15:30 に変更します。

|  |
| --- |
| set\_servertime.ps1 –Target test\_world1 –Mode Set –Year 2018 –Month 7 –Day 7 –Hour 15 –Minute 30 |

以下の例では、 tos-test-game1ホストのシステム時刻を 2018/6/21 5:00 に変更します。

|  |
| --- |
| set\_servertime.ps1 –Target test\_world1 –Mode Set –Year 2018 –Month 6 –Day 21 –Hour 5 –Minute 0 |

以下の例では、 tos-test-game1ホストの時刻同期を有効化し、ドメインコントローラーと時刻を同期するようにします。

|  |
| --- |
| set\_servertime.ps1 –Target test\_world1 –Mode Return |

**set\_servertime\_workgroup.ps1**

ワークグループ環境で使用します。

ターゲットのシステム時刻を変更します。

タスクの実行結果とタスクが実行されたホスト名を格納したオブジェクトを返します。

**※ワークグループ・ドメイン環境で使用可能。**

## パス

set\_servertime.ps1と同一のため割愛

## パラメーター

set\_servertime.ps1と同一のため割愛。

## 戻り値

set\_servertime.ps1と同一のため割愛。

## 構文例

以下の例では、tos-test-game1ホストの時刻同期を無効化し、システム時刻を 2018/7/7 15:30に変更します。

|  |
| --- |
| set\_servertime\_workgroup.ps1 –Target test\_world1 –Mode Set –Year 2018 –Month 7 –Day 7 –Hour 15 –Minute 30 |

以下の例では、tos-test-game1ホストの時刻同期先をNTPサーバーに設定し、同期を有効化します。

|  |
| --- |
| set\_servertime\_workgroup.ps1 –Target test\_world1 –Mode Return |

# **認証ユーザー情報の変更について**

PowerShell Remote で ユーザー認証を利用している関係で、例えばパスワードが変更された～などの時に、合わせて変更をする必要があります。

認証ユーザーの設定は、以下パスのファイルに記載されています。

・C:\scripts\Change\_datetime\conf\credential.enc

上記ファイルは暗号化処理されているため、内容を編集するには複合化をする必要があります。

複合化は同梱のpsスクリプトを使用することで可能です。

PowerShellコンソールを起動して、下記コマンドを実行します。

|  |
| --- |
| C:\scripts\encrypt\_decrypt\encryptdecrypt.ps1 –Mode Decrypt |

暗号化ファイルcredential.encと同ディレクトリに 複合化されたファイルcredential が出力されます。

credential を正しい情報に編集した後、再度暗号化処理を施します。

PowerShellコンソールを起動して、下記コマンドを実行します。

|  |
| --- |
| C:\scripts\encrypt\_decrypt\encryptdecrypt.ps1 –Mode Encrypt |

C:\scripts\Change\_datetime\conf\credential.enc が生成されます。

暗号化した後は、暗号化元のファイルは適宜削除するようにしてください。

# **ターゲットホストの変更について**

ターゲットホストは、クライアントサーバー上の C:\scripts\Change\_datetime\server\_list.jsonで管理をしています。

{

"test\_world1": ["ToS-T-G01"],

"test\_world2": ["ToS-T-G02"],

"pre\_world1": ["ToS-P-G01"],

"pre\_world2": ["ToS-P-G02"],

"test": ["ToS-T-M01"]

}

値にホスト名またはIPアドレスを入力します。

キー名は、各スクリプトのTargetパラメータとして指定することで、その値となるホストの時刻を取得、変更することができます。

ToS-T-G02の現在時刻を取得する。

|  |
| --- |
| get\_servernow.ps1 –Target test\_world2 |

値はリスト形式でも記述が可能です。

{

"test\_world1": ["ToS-T-G01", “target\_host2”, “target\_host3”],

リストで記述した場合は、記述されたすべてのホストに対して処理が実行されます。

以下の例では、ToS-T-G01、target\_host2, target\_host3 の現在時刻を取得します。**※返却されるオブジェクトの方はリストになります。**

|  |
| --- |
| get\_servernow.ps1 –Target test\_world1 |

新しく要素を追加することも可能です。

{

"test\_world1": ["ToS-T-G01", “target\_host2”, “target\_host3”],

“test\_world12”: [“target\_host”]

値はリスト形式で記述するようにしてください。

以下の例では、target\_host の現在時刻を取得します。

|  |
| --- |
| get\_servernow.ps1 –Target test\_world12 |

# **その他補足**

・ドメイン環境では、PowerShell RemoteでKerberos認証を使用している関係で、検証上ドメインコントローラーとメンバーサーバー(ToS-T-G01~02, ToS-P-G01~02)のシステム時刻が10800分(7日) 以上ずれるとリモートホストとのセッションの作成に失敗します。この10800分というのは固定ではなく、ドメインのグループポリシー設定により環境ごとに異なります。

この事象はドメイン環境でのみ発生しますので、例えばワークグループ環境の場合は影響は一切ございません。

ToS環境での例になりますが、

例えば現在時刻が 2018/1/1 0:00 だとして、ToS-T-G01のシステム時刻を 2018/1/9 0:00 に変更すると、チケットの有効期限が切れてしまうため、それ以降このホストへの時刻変更処理及び現在時刻の取得に失敗してしまいます。(10800分をまたぐ時刻変更自体は可能です。しかし、変更をしてから時刻取得・変更操作を受け付けなくなるという意味です。)

なので7日以上の変更を伴う時刻変更処理をさせないようにするか、あるいは7日以上の変更は可能だが、それ以降指定のホストへの作業ができなくなることを表示するなりなんなりで注意喚起しておく必要があります。